

八丈島との野球交流を通して

阿南つどいクラブ 主将 萩原 宏昭さん(67歳・上大野町)

5年前、高島監督の人柄と「生涯現役で野球を楽しもう」という言葉に惹かれ、寄り集まった10数名の元小中学校経験者で結成したのが「阿南つどいクラブ」である。発足以来、監督の適所に適材を使うという名采配にチーム力も上がり「勝つ野球」に近づきつつある今年、初めて県外遠征の機会が訪れる。それも阿南市のパートナーである「八丈町」との交流の橋渡しとして。

5月19日、その日はやってきた。徳島空港を朝、飛び立ち、羽田空港で乗り換え、紺碧の黒潮に抱かれた八丈島の全景を窓越しに見ながら昼過ぎに着いた。

到着ロビーでは町職員やユニフォーム姿の「八丈島フェニックス」の温かい出迎えを受け、旧交を温め合う。また幸運に1年に7日から10日間ぐらいいしかなないという「快晴」にも恵まれる。

南原スポーツ公園野球場は八丈富士を背中に、また、正面には暖流黒潮の香りとその向こうに八丈小島を見る絶景の場所にある。5月3日にオープンしたばかりの全天候型、内

外野とも全面、人工芝のすばらしい球場である。

落ち着く間もなく、岩浅市長の始球式で試合開始。1回表、好走塁で幸先良く1点をとったのもつかの間、その裏、私が自信を持って投げ込んだアウトコースの低めの速球をものの見事にセンターに打ち返され、同点にされる。その後、互角で試合は進み、最終回、四球を与えたことから失策が失策を呼び、5人のチアガールの声援もむなしくゲームセット。しばしの休息の後、2試合目は大差で勝利。1勝1敗で親善試合は終了。

その夜、ホテルでの交流会には町長をはじめ総勢40数名の役職の方が参加。島の伝統芸能である「八丈太鼓」の勇壮な響きに感動し、明日葉を主にした郷土料理を堪能する。町あげでの歓待ぶりに、飲めない者でも、思わず焼酎の「黒潮」をぐいぐいと！座も一層盛り上がったところで「阿波おどり」で返礼。団扇に、はちまき、会場は乱舞の渦。あつという間の2時間。この後、町で用意してくれた二次会に繰り出し、さら

に親交を深めたことは言うまでもない。

次の日の夕方、多くの方の見送りを受けて機上の人に。八丈の人たちの人情は本当に厚い。

「八丈島の文化は、黒潮がもたらした漂流・漂着、そして流人の文化」と言われる。島の人たちの包み込むような温かさはいろんな船や流人を温かく受け入れてきたという懐の深い歴史があるからなのだろう。

昨年「野球観光ツアー」で来市、そこで初めて縁ができ、今回八丈町を訪問してより深いつながりができたのではないか。野球交流がもたらした八丈島と阿南市の縁。この深まった絆をより大事にするとともに私たちは八丈島の人々・自然などから学んだ多くの収穫を野球だけでなく多方面に生かす努力をしていかなければと考えている。

